

令和5年度 第4回学校運営協議会 議事録

日 時 令和6年3月8日(金) 15:00~16:30

場 所 住吉高等学校 第一会議室

参加者 吾妻幸治 氏 (PTA会長) 遠藤哲哉 氏 (同窓会)
岡本専太郎 氏 (神奈川大学化学生命学部教授) 中野信吾 氏 (木月住吉町会長)
小松英光 氏 (川崎市立住吉中学校長) 外崎 学 (校長)
川島秀生 (副校長) 蠣田美穂子 (教頭) 田中 浩 (事務長)
鈴木吉維 (キャリア活動支援GL) 長戸真紀子 (生徒会GL) 中山和也 (学務GL)
友貞章子 (生活・生徒支援GL) 佐久間健三 (総務管理GL・調査研究GL)

- 次 第
- 1 開会
 - 2 校長挨拶
 - 3 学校評価部会
 - 4 地域連携部会
 - 5 その他
 - 6 閉会

資 料

- ・令和5年度学校評価報告書
- ・生徒による授業評価概要(12月実施分)
- ・魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート結果
- ・学校教育計画「4年間の目標」に対する取組の達成度評価総括表
- ・令和6年度学校評価報告書(4年間の目標)
- ・教育実践研究(第7号)

1 開会

2 校長あいさつ

- 新型コロナウイルス感染症も落ち着き、5月より通常通りの教育活動が展開できた。生徒も学校内外で頑張っている。
- 体育館の耐震工事で体育授業や部活動で制限されている。住吉中学校には体育館をお借りし、お世話になっている。
- 入学者選抜は1.27倍の倍率であった。不合格となった生徒のためにも頑張って指導したい。
- 3月5日に卒業式を行い346名の卒業生を出した。本校での卒業に至らなかった生徒は、人間関係・人付き合いでの悩みという事情が多い。他校でも同様の傾向である。今後ますます支援が重要になってくる。
- 本日の協議会では今年度の総括に加え、来年度以降の展望についてもご意見を賜りたい。

3 学校評価部会

- (1) 「生徒による授業評価概要（12月実施分）」「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート結果」について（別紙）

【岡本委員】

○前回の評価もそうだが、この評価のレベルを維持するのは立派である。大学では業者委託し、学生の成績とクロス集計している。

【小松委員】

○情報の評価が目立って高いが何か理由があるか。

（回答）おそらく、作業として自分の技能向上や達成感を味わえるのではないか。

【岡本委員】 大学でも実習系の科目は評価が高い傾向にある。

○様々な行事も拝見したが、魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートで高い満足度となっているのも納得できる。

- (2) 令和5年度学校評価報告書について（別紙）

ア 教育課程・学習指導

【学務G】

○指導と評価の計画を作成している。1年生分は完成、2年生分は県からの指導を反映させる修正を行っている。来年度初めに完成する予定である。

【調査研究G】

○プログラミング教育研究推進校として第3期2年目が終わろうとしている。次年度、まとめの年になる。

(委員より)

【吾妻委員】

○満足度アンケート結果から、良い回答を得られた。感謝している。

【遠藤委員】

○日本の教育は暗記がメインであるが、考えて答えを導き出す力を引き出してあげれば、もっとのめりこんで学習すると思う。

○他人と比較するのではなく、自分のために勉強しているという自覚を持たせたい。

【岡本委員】

○新カリや指導と評価の計画など、良く対応している。先生方の業務過多が心配である。

○プログラミング教育が、ロジカルなシンキングに効いていて、進路結果にもつながっているのではないか。

イ 生徒指導・支援

【生活生徒支援G】

○集団生活に不可欠な「規律を守る」ことを指導している。

○心の悩みを抱える生徒が多い。調査すると「実は・・・」という形で発覚することが多くSOSを聞き取るための支援体制を充実させたい。

○今年度から県のシステム「サポートドック」が導入され、心理面や経済面の悩みなどのアンケート調査を2回実施した。この結果から担任の聞き取り、学年での共有、SCやSSWとの話し合いなど段階的に深いレベルでの支援を展開した。

【生徒会G】

- 久しぶりに「お掃除大作戦」が復活した。
- 生徒会行事も通常に戻ったが、体育館が使えない状況があり、イレギュラーな対応が求められた。様々な対応に追われたが、生徒主体に重きをおきたい。

(委員より)

【岡本委員】

- お掃除大作戦が復活してよかった。
- 規律・集団と「個」の問題で、規律や集団については高校までしか指導できない。
- 心の悩みなども、良い子は自分で解消しようとして表現しない。拾い上げようと努力していることを評価する。ノウハウを若手教員に伝えてほしい。

ウ 進路指導・支援

【キャリア活動支援G】

- 今年度入試の実数はまだ集計中である（これから結果が出る生徒も多い）。5月の協議会で報告する。感触としては難しい大学にも合格者がでてきている状況である。
- 進路指導を前倒しして、2年保護者への進路説明会を12月に、卒業生による進路後援会を昨日実施した。
- 1・2年生にスタディサブリを導入しているが、もっと利用率を上げたい。3年次にはスタディサポートも入れて希望の進路実現を支援していきたい。

(委員より)

【岡本委員】

- 進路については、親も早く決めたいと思っているようだ。逆に最後の一般入試まで頑張っている生徒もいる。最後まで頑張ったおかげで進路実績が上がってきているのではないか。

エ 地域等との協働

【総務管理G】

- 10月・12月に学校説明会を幸市民館で開催。10月は午前午後ともほぼ満席であった。12月は時期的なものもあり空席があった。参加者アンケート回答から、おおむね満足いただけたと思っている。

【調査研究G】

- HPのリンク切れについては、適宜公開期間更新や、情報の更新を行っている。グループ等各担当がこまめにチェックしてくれている。定期的に県からもリンク切れの連絡が入るので修正している。

(委員より)

【中野委員】

○地域代表としてこの協議会に参加しているが、高校でいう地域とは何を指しているのか。

(回答) 一般的には地域社会、近隣町内、商店会などがあげられるが、県立高校の場合は学校周辺に加え、居住地の地域も含んで考えている。

○町内会としては、以前は高校のことを全く知らなかった。最近になってお祭りへの協力などで高校の様子が見えてきた。地域住民がどのくらいの頻度で接することができるのか。地域の感覚(学校周辺なのか、生徒の居住地なのか、志願者の居住地なのか)を間違えないようにしてほしい。町内会として協力もするし、協力をいただきたい。

(回答) 生徒が学校外でも活動・活躍できる場を充実させたい

【小松委員】この地域に中学校と高校がある。中高が連携することで地域貢献や地域の活性化ができると考える。

オ 学校管理・学校運営

【調査研究G】

○一人1台端末は来年度3学年そろろう。

○昨年度から試行錯誤を重ねながら、情報を共有し、積極的活用をすすめている。

(委員より)

【岡本委員】

○端末は大学でも各自用意してもらっている。大学では1年次にワード、エクセルの指導をする。学生はスマートフォンの入力に慣れているが、キーボードが打てるよう指導している。

○最近AIの発達で、評価対象の提出物にはナーバスになっている。紙での提出を復活させたいと思っている。

【小松委員】

○中学校は学年単位で貸与しているが、市教委からはもっと使えと言われる。ネット上のトラブルや不適切なサイトの閲覧など、見えない危険もある。諸刃の剣である。

(3) 学校教育計画「4年間の目標」に対する取組の達成度評価総括表について(別紙)

【副校長】

○別紙のとおり自己評価をしたが、これでよいか。

(各委員より)

○控えめに自己評価している。もっと◎があつてよい。

(4) 令和6年度学校評価報告書(4年間の目標)について(別紙)

【副校長】

○県から指示のあるスクールミッションはおおむね変わらない。資料参照の上、5月の協議会でご意見をいただく。

5 地域連携部会

(今後の予定) 地域のイベントに美術部、チアリーディング部、吹奏楽部が協力する。

6 その他

(1) 教育実践研究7号について

○冊子が完成したのでご覧いただきたい。教員も勉強しよう、若手の教員に経験を伝えたいという趣旨で作成している。

(2) 令和6年度入学式について

4月5日(金) 14時 スクラム21で実施、招待状を送付する。

(3) 次回学校運営協議会

5月に開催する予定

7 閉会

以上